

# 宮田守男 フィールド風 (現場)からの

10月初旬、和歌山県北東部の町、高野町に旅する。高野山真言宗の聖地高野山を中心とする町で、貴重な文化財・建造物・名所が数

多く存在する。2004年には「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され、日本のみならず世界中から多くの観光客が訪れているとの情報が訪れた理由だった。精神的には旅行プランの企画は容易だったが、自家用車で予定した初めての訪問地での往復1000キロを超す旅程に不安を感じたことも事実だ。

朝4時に自宅を出発。自家用車に搭載してあるカーナビゲーションを頼りながら目的地に向かうが、2年前に購入した時の道路データと、それ以後に

既存道路を大規模に改良した道路状況には、全く対応できず大混乱に。遠方に旅する時には新しいデータに、痛感した。現在のように交通が開けていてもトラブルがあるのに、道路が開けるまでは難

みると、少し趣が異なってくる。「参」を使った言葉には、参宮・参拝などあるが、これらは全て「拜む」・「祈る」という行動目的がある。しかし「詣」を使った「参詣」は、到着のみを目的にして

1つは、永遠の生命と呪力を持った弘法大師の御廟にもうで、その功德利益を受ける事、もう1つは、山岳霊場である高野山に納骨し、もしくは位牌を立てて、死者の霊を鎮魂供養する事だった。

長など多くの供養塔を倒される。初めて見ると、歴史そのものが見えるような気になってくる。また企業のパナソニック・クボタなどの供養塔や関東大震災や関西大震災、東北大震災の供養塔、韓国人のお墓もあるなど単なる墓地でない雰囲気が高野山霊場、墓碑の前に神社様式の鳥居、神仏一体を強く意識してしまっ

## 旅することで、改めて考えさせられる 事の多い事を体験してみませんか

行苦行の連続だったのだらう。昔から高野山に行くのに「高野詣」と呼ばれていた。「参る」も「詣る」も同じ意味だが、行き先を神社仏閣に限定して「参る」と「詣る」を比べて

いるとの考え方もある。今回の高野山の旅は、拜むことや祈る事を目的にしない到着そのものを目的にしたものだ。しかし多くの人

確かに奥の院には、数十万基を超える各時代の人々の墓碑や供養塔が2キロ近くの距離の中に立ち並んでいる。曾我兄弟・平敦盛・大岡越前・上杉謙信・紀州徳川・伊達政宗・石田三成・豊臣家・織田信

長など多くの供養塔を倒される。初めて見ると、歴史そのものが見えるような気になってくる。また企業のパナソニック・クボタなどの供養塔や関東大震災や関西大震災、東北大震災の供養塔、韓国人のお墓もあるなど単なる墓地でない雰囲気が高野山霊場、墓碑の前に神社様式の鳥居、神仏一体を強く意識してしまっ

長など多くの供養塔を倒される。初めて見ると、歴史そのものが見えるような気になってくる。また企業のパナソニック・クボタなどの供養塔や関東大震災や関西大震災、東北大震災の供養塔、韓国人のお墓もあるなど単なる墓地でない雰囲気が高野山霊場、墓碑の前に神社様式の鳥居、神仏一体を強く意識してしまっ

長など多くの供養塔を倒される。初めて見ると、歴史そのものが見えるような気になってくる。また企業のパナソニック・クボタなどの供養塔や関東大震災や関西大震災、東北大震災の供養塔、韓国人のお墓もあるなど単なる墓地でない雰囲気が高野山霊場、墓碑の前に神社様式の鳥居、神仏一体を強く意識してしまっ



高野山霊場、墓碑の前に神社様式の鳥居、神仏一体を強く意識してしまっ